

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.196

発行: 令和4年6月1日



講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の20日から)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況などによって中止、または、内容を変更させていただくことがあります。あらかじめ、ご了承くださいませよう、お願いいたします。

「山野草講座」～寄せ植え作り

1,000円

とき 令和4年6月18日(土)

午後1:30～3:30 定員10名

講師 園芸家 森下 光晴さん



「フラワーハンギングバスケットづくり」

2,500円

とき 令和4年6月19日(日)

午後1:30～3:30 定員10名

講師 フラワーマスター 山本 裕美さん



「立派なコショウランをもらった時の講習会」

とき 令和4年6月26日(日)

午後1:30～3:30 定員5名

講師 緑のセンター相談員



「ハーブで除菌スプレーづくり」

1,000円

とき 令和4年6月29日(水)

午後1:30～3:30 定員10名

講師 ハーブコーディネーター

建部 久美子さん



緑のセンターまつり 2022

日時: 令和4年6月25日(土)

午前10時～午後4時

場所: 神楽岡公園 緑のセンター内および屋外周辺

3年ぶりの開催となる、緑のセンターまつり2022は、例年の開催日と内容を変更して開催します。

開催内容は(公財)旭川市公園緑地協会のツイッター旭川市緑のセンターでも

発信していきますのでこちらもチェックしてくださいね♪



【休館日のお知らせ】

4月～10月は第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月～3月は毎週月曜日が休館日です。(")

令和4年度 連続講習会 13:30～15:30

これから始める家庭菜園の初級講座

第2回・6/4(土) 第3回・7/16(土)

講習会の開催予定 講習会のお知らせなどにつきましては、緑のセンターだより、市民広報などでお知らせいたします

*令和4年8月 神楽岡公園 夏の自然観察会

*令和4年9月 おいしい野菜を作る土づくり講座

花フェスタ 2022 旭川

日時: 6月8日(水)～12日(日)の

10時～18時(最終日は17時まで)

場所: 旭川市 平和通買物公園

1条通～2条通7・8丁目

* 緑の相談コーナー併設 *
お気軽にお越しください

6月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根類

秋植え球根のチューリップなどは、花が終わったら花がら摘みを行い、葉は刈り取らず、球根の肥大を図ります。

ダリア、グラジオラスなど春植え球根は植え付けの適期です。

ポインセチアは剪定し、植え替えの時期です。処理後2週間までは水やりのみ、新芽の発生で液肥を与えましょう。

ハイビスカス、ブーゲンビリア、クチナシなど植え替えの適期です。ポイントは必要以上に鉢を大きくしないこと。(1号分程度)

2 庭木・果樹類

ツツジ、シャクナゲ、ライラックなどは花後すぐに整姿し、化成肥料を施します。

リンゴ、ナシはなるべく早く一箇所から出た複数果実のうち形が良く大きい果実を1つ残し、プラムやプルーンは果実がぶつからない程度に摘果しましょう。

ブドウの副芽や込み合っている芽を摘除する芽かきを行います。また新梢は受光環境をよくするため早めに誘引しましょう。

モモシンクイガの発生が多くなるので、リンゴ、ナシは袋かけ(6月下旬~7月上旬)をし、スモモ類は定期的に殺虫剤を散布しましょう。

3 観葉植物類

観葉植物のカポックなど節間が伸び乱れた株は切り戻して剪定し、取り木をする時期です。また、根詰まりしている鉢は植え替えの適期です。

4 多肉植物・サボテン類

シャコバサボテン、クジャクサボテンなどは外に出し、太陽の光を十分にあてましょう。

カランコエ、カネノナルキなど多くの種類で植え替え、株分けの適期です。

7月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根類

パンジー、デージーは来年の春花壇用に中旬ごろまでに種をまきましょう。

春植え球根のダリア、カンナ、グラジオラスなどは盛んに生長しているので、支柱を立て開花後は花がら摘みをしましょう。

ブーゲンビリアは開花期です。開花後、新梢が伸びたら順次切り戻し、水やりを控え、日当たりの良い場所で管理しましょう。

ポインセチアは生育が盛んな時期です、肥料と水は切らさず、日光に十分当てましょう。

2 庭木・果樹類

針葉樹の枝は葉が付いていないと枯れやすいので、深刈りの強剪定はできませんので注意します。

生垣、玉物、イチイ(2度刈り)の剪定時期です。なお、花木類は花芽ができかかっているため刈り込むと全体の花芽を落としてしまうので注意します。

ライラック、レンギョウ、フジ、ツツジなどは花芽ができる時期です。リン、カリの多い肥料を与えます。

果樹類はモモシンクイガの最盛期になるので、殺虫剤を散布します。リンゴに黒点病、ナシに赤星病などが発生しやすいので殺菌剤を散布しましょう。

リンゴ、ナシ、サクランボ、スモモなどは枝の背面から直立した枝(徒長枝)が勢い良く出て、日当たりを悪くするので剪定しましょう。(夏剪定)

3 観葉植物類

成長が盛んな時期です。水と肥料を十分に与えましょう。植え替え、挿し木などの作業は早めに済ませましょう。

4 多肉植物・サボテン類

クジャクサボテンは直射日光に十分当て肥培管理し茎を太らせましょう。四季咲きペコニアの伸びた茎をピンチ(切り戻し剪定)することで新芽が伸び、次々と花をつけるので忘れないようにやりましょう。

植物の病害虫

その 67 「イチイのカイガラムシ」



1 寄生しやすい植物

イチイカタカイガラムシはイチイ、アオキシロカイガラムシはイチイの他に、ホオノキ、カツラ、イボタ、コブシ、イヌツゲなど。

2 被害

葉や茎、枝などに綿状の塊、あるいはロウ状の塊が多数付着します。虫の排泄物が葉や茎の上に付着して茎や葉が黒く汚れたり、枝が先端部から枯れ込んだりします。

3 生態

雌と雄では全く異なった生活をします。雄は成虫→卵→幼虫→蛹→成虫(翅がある)、雌は成虫→卵→幼虫→未成熟幼虫→成虫(翅と脚が退化して動けない)を年に1~3回繰り返す。年中姿が見られます。冬の間はじっと眠った状態で過ごします。孵化した幼虫は、殻の下から這い出して四方に広がりますが、広がる範囲は狭く成虫のいた付近の葉や枝程度です。しかし、小さくて軽いため、風に乗って飛行し遠距離移動することもあります。

4 防除

幼虫の発生時期を的確に把握して、虫体に被覆物が十分に形成しない幼虫(発生期は5~9月と種類によって異なります)がピークなる時期に防除を行うことが大切です。

薬剤:「商品名スミチオン乳剤、オルトラン水和剤、ベニカ水溶剤(成分名は省略します)」です。

ちょっと楽しい講座のご紹介

緑の講習会「神楽岡公園 春の自然観察会」の散策会から

この散策会は、長年務めていただいています植物研究家の塩田 惇さんにご案内をお願いしました。

当日は朝から小雨模様でしたが、15名の参加者は観察会のお供に講師より寄贈された植物図鑑と雨具の準備をしてスタートしました。

当日は桜が満開でした。この時期に咲いているコブシやササ、トリカブト(毒草)、カシワやミズナラ等をホワイトボードや図鑑を使って、生育する特徴の説明や落ちた花や葉を観察しました。エゾタンポポは、朝晩の気温が低かったためか、いつもの場所では咲いておらず。陽の当たる所で元気に咲いていました。

この時期に咲く、エゾエンゴサクの花色は青や紫なども見られ、ニリンソウの葉は出ていましたが、気温が低く花は見られませんでした。

オオバナノエンレイソウの開花やマイヅルソウ(未開花)も見られました。後半には天候も回復し、無事に観察会を終えることができました。

公園内には多くの野草が生息していることを再確認できました。





ポインセチアを楽しむ

ポインセチアの原産地は、メキシコの暖かい地域です。毎年、クリスマスシーズンになると鉢植えで出回りますが、地植えでは3～4mにもなる常緑性の低木です。

寒さには弱い植物なので、冬に入手した場合に注意することは、窓辺や玄関は冷え込むことから、夜は厚手のカーテンを引いたり、窓から離しておいて最低温度 10℃以上を保つようにして楽しみます。

しかし、しばらくすると「赤い葉がなくて緑の葉ばかり」「背が伸びて、下の葉がなくなった。」などの声を聴くようになります。

☆☆☆「葉が…緑の葉ばかりになった」の対策☆☆☆

1日のうち、明るい時間の長さを「日長」といいます。冬至から夏至までの期間は、日に日に昼の時間が長くなる(夜の時間が短くなる)頃に花をつける植物を長日植物といいます。ポインセチアは短日植物です。

日照時間が減ったことを葉が感じとり、花を咲かせる準備をして葉が赤くなる性質ですが、夜に電気をつけていると12時間以上の日長を感じて葉は赤くなりません。赤くするための短日処理は9月から11月に行います。方法は夕方5時から翌朝の8時ごろまで、段ボール箱などを頭からかぶせて真っ暗くすると、花芽をつけさせることができます。苞が完全に色づくまで短日処理を続けましょう。葉は赤くなります。

☆☆☆「背が伸びて、下の葉がなくなった。」の対策☆☆☆

ポインセチアは開花後の株をそのままにしておくと、株の上部からしか新芽が出ずに、腰高な株になってしまいます。多年草ではないので、ほかの観葉植物や庭木と同じように剪定が必要です。切り戻し剪定は4月から5月が適期です。色づいた部分を切り取り、株元からの新芽の発生を促します。コンパクトにするために1/3程度の大きさに切ってしまうてもかまいません。毎年の植え替えと同時に切り戻しを行いましょう。

展示室の植物 (102)

ネコノヒゲ 学名:Orthosiphon aristatus シソ科 オルトシフォン属

インドからマレー半島が原産の植物で、本来は毎年花を咲かせる多年草です。花びら自体はさほど目立ちませんが長く伸びた雄しべと雌しべがやや上向きにピンと反り、そのユニークで特長的な姿が「ネコのひげ」を連想させるところからこの名前が付いたといわれています。

緑のセンターでは、耐寒性がないことから鉢植えにして温室で花を楽しむ観賞用として育てていますが、葉に利尿作用や血圧を下げる効果のある成分を含むことから、日本へは当初、薬用植物として導入されました。「クミスクチン茶」の名前で健康茶の一種として出回っています。

